

技術指導申請書 (日本語)

기술지도 신청서 (일본어)

申請番号: KJC-2026-0065

☑ 翻訳者: 번역가 계정 (translator)

📅 完了日: 2026-09-20 20:54:33

企業概要	企業名 (英文)	SUNG SHIN RST		
	所在地	(52022) 大韓民国 慶尚南道 咸安郡 漆原邑 東大伊キル 183 ソンシンRST		
	業種	☐ 機械 / 重工業 (工作機械、産業機械、建設機械、プラント設備) ☐ 金属 / 素材 (鉄鋼、非鉄金属、合金、新素材 [炭素繊維、セラミックス等]) ☐ 電気 / 電子 / IT (半導体、ディスプレイ、電子部品、通信機器、電子機器) ☒ 自動車 / 輸送機器 (完成車、自動車部品、鉄道・航空・船舶部品) ☐ 化学 / 石油化学 (精密化学、高分子・プラスチック、合成樹脂、機能性素材) ☐ エネルギー / 環境 (二次電池 [バッテリー]、水素、新エネルギー、環境設備) ☐ 食品 / 生活用品 (加工食品、飲料、消費財生産) ☐ 繊維 / ファッション (一般繊維、機能性繊維、衣料製造) ☐ バイオ / 医療 (医薬品、バイオ素材、医療機器、ヘルスケア) ☐ その他		
	設立年度	1994	従業員数	120
	主な生産品	鉄道車両および関連部品		
	ホームページ	ssrst.com		

技術指導 申請情報	指導希望期間	2027年 1月 ~ 8月 (8ヶ月)
	指導方法	☒ オフライン (訪韓指導) : 日本の技術者を企業の製造現場に招待して指導を受ける形式 ☐ オンライン (遠隔画像指導) : Zoom、Teams、Google Meetなどのビデオ会議プラットフォームを活用して指導を受ける形式 ☐ オン + オフライン 並行指導

	指導希望内容	1) 鉄道車両の強度・剛性解析手法および構造解析(FEA)による最適設計手法に関する技術指導
		2) 車両走行体の振動・疲労破壊・応力を考慮した設計手法ならびに製造、工程、原価管理を含む工場生産性向上手法に関する技術指導
		3) 電気機器(電動機、変圧器、電力変換装置等)の計測機器を活用した性能評価・データ活用手法、および電気設備のメンテナンス技術、電気システムの計画・設計・メンテナンス・施工管理に関する技術指導
	技術指導希望分野	☒ 研究開発 (新製品 / 新技術研究、新素材開発、プロトタイプ製作) ☒ 設計 (製品設計[CAD/CAE]、回路設計、金型 / 治工具設計) ☒ 生産技術 (工程設計、生産ライン構築、生産性向上、自動化推進) ☐ 製造 (加工、組立、成形、溶接、組立ライン運営) ☐ 品質 (品質検査、不良分析、ISO / KS認証対応、品質改善活動) ☒ 設備 / 保全 (生産設備点検、故障対応、予知保全、ロボット / 自動化設備管理) ☐ 生産管理 (生産計画立案、資材所要量管理[MRP]、原価 / 納期管理) ☐ 購買 / 資材調達 (原材料購買、協力会社管理、サプライチェーン管理) ☐ 物流 / 在庫 (原材料入出庫、製品出荷、物流自動化) ☐ 安全 / 環境 (労働安全管理、環境規制対応、ESG経営支援) ☐ 市場調査 (産業動向、競合分析、新技術トレンド調査) ☐ その他
	悩み技術 製品写真	

申請の きっかけ	技術指導事業申請のきっかけ
当社は、1990年の創業以来、鉄道車両の走行装置メーカーとして事業を展開し、その後、さまざまな鉄道車両の完成車両を製造する企業へと成長・発展してまいりました。 現在は、各種動力車、旅客列車、鉄道保守車両、貨物輸送車両など、多様な鉄道車両を設計・製造しており、韓国国内のみならず海外市場への輸出実績も有しています。 韓国の鉄道車両製造技術を海外市場へ展開し、グローバル市場における競争力強化にも取り組んでいます。 今回、日本の優れた技術専門家による技術指導を通じて、電車・列車など鉄道車両の設計・製造に関する幅広く高度な知識と技術を習得し、当社の製造技術へ応用することで、さらなる技術力向上と企業競争力の強化を目指します。	

期待効果	日本技術者指導の必要性および期待効果
	1. 日本技術者による技術指導の必要性 日本は鉄道車両の製造技術、自動化技術、品質管理などの分野において世界トップレベルの技術力を有しています。日本の専門技術者から直接指導を受けることで、設計・製造に関する実践的なノウハウや現場での適用方法を体系的に習得することができます。 また、設計資料や理論だけでは習得が難しい問題解決手法、品質管理の考え方、現場で培われた作業ノウハウや改善手法についても、実際の経験に基づく技術指導を通じて効果的に学ぶことができます。 さらに、専門技術者による直接指導は、単なる資料提供や教育に比べて学習期間を短縮し、開発・製造過程における試行錯誤を減らすことで、技術の早期定着につながると考えています。 2. . 期待効果 産業競争力の強化および海外市場への参入拡大 生産性向上と不良率の低減 技術の自立化による長期的なコスト削減 国際協力ネットワークの構築 当社は、日本の技術者による技術指導を単なる技術習得の機会ではなく、日本のものづくり文化、品質に対する考え方、そして長年蓄積された現場ノウハウまで学ぶことのできる総合的な技術交流の機会と考えています。